

競 技 注 意 事 項

1 競技規則について

本大会は、2024年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則及び大会要項、本注意事項に準じて実施するが、年齢段階を考慮して、特に教育的配慮のもとに進行する。

2 招集について

(1) 招集所は北ゲート付近に設ける。(100mスタート後方の用器具倉庫付近)

(2) 種目別招集開始・完了時刻は、プログラムの競技日程に記載している。

(3) 招集の方法については次の通りである。

① 招集開始時刻に招集所において競技者係の点呼を受ける。その際、アスリートビブス・スパイクピンの点検を受ける。トラック競技のみ腰ナンバー標識を受け取りつける。

※ 腰ナンバー標識は、競技終了後に返却すること。

② 代理人による最終点呼は認めない。2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめその旨を競技者係に申し出ること。

③ 招集完了時刻に遅れた競技者は、出場できない。

④ 棄権する場合は、あらかじめ競技者係に招集完了時刻までに申し出ること。

(4) リレー種目について

「リレーオーダー用紙」(招集所で配付)に必要な事項を記入し、招集完了時刻1時間前までに競技者係(招集所)に提出すること。招集完了時刻前であっても、一度提出したオーダー用紙の差し替えは認められない。

3 アスリートビブスについて

(1) アスリートビブス(ナンバーカード)は、折り曲げないで、ユニフォームの胸と背に確実に付けること(4ヶ所、2点留め)。

(2) 走高跳に出場する選手も、胸と背の両方にアスリートビブスを付けること。

4 競技場内への入退場について

(1) 招集所から競技者係の誘導により競技場に入場する。

(2) 競技終了後は、競技役員の指示に従い退場する。

5 競技について

(1) トラック競技について

① トラック競技の計時は、すべて写真判定装置を使用する。

② トラック競技はすべてタイムレースとする。

③ レーンで行う競技においては、欠場者のレーンは空ける。

④ 短距離種目では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン(曲走路)を走る。

⑤ スタート合図は、イングリッシュコールで実施する。

⑥ 不正出発(フライング)については、現行ルールを適用せず、1人2回で失格とする。

- ⑦ リレー競走におけるテイク・オーバー・ゾーンは30mとする。ゾーンの外から走り出してはならず、ゾーンの中でスタートしなければならない。
- (2) フィールド競技について
- ① フィールド競技における競技場内での練習試技は、すべて競技役員の指示に従う。
- ② 走幅跳、ジャベリックボール投の試技は、まず3回の試技を行い上位8名を選出し、さらに3回の試技を行い順位を決定する。
- ③ 走高跳は、マットへの着地は足裏からとし、背・腰・尻からの着地は無効試技とする。(はさみ跳び・正面跳び等とし、背面跳び・ベリーロールは禁止する。)
- ④ フィールド競技の試技の時間は、1分以内である。名前を呼ばれてから1分以内に試技を開始しなかった場合は、無効試技となる。なお、走高跳で残りの選手が少なくなった場合は、この限りではない。
- (3) 競技者はビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で所持または使用することはできない。また、競技者は勝手に競技場所を離れることはできない。

7 80mハードルについて

ハードルの高さ及びインターバルは下表の通りとする。

スタートから1台目	高さ	インターバル	台数	最終ハードルからフィニッシュ
13m	70cm	7m	9台	11m

8 走高跳のバーの上げ方について

走高跳のバーの上げ方は次の通りとする。

種別	練習	バーの上げ方
男子	1m10	1m15-1m20-1m25-1m30-1m33-1m36-1m39-以降 3cm ずつ
女子	1m05	1m10-1m15-1m20-1m25-1m28-1m31-1m34-以降 3cm ずつ

なお、天候、その他諸事情等によりバーの上げ方を審判長判断で変更する場合がある。

9 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使用しなければならない。
- (2) スパイクピンの長さは、9mm以内とする。いずれの場合もスパイクピンの数は11本以内とする。

10 表彰について

各種目上位3名まで表彰し、賞状を授与する。表彰は全競技終了後、15時(予定)からメインスタンド前で行う。

11 一般注意事項

- (1) 競技場での疾病、傷害等の応急処置は主催者で行うが、以後の責任は負わない。
- (2) 大会期間中の貴重品の保管は、各自で行うこと。盗難にあっても責任は負わない。

12 練習について

- (1) 練習は本競技場を午前8時から午前9時30分まで開放する。
- (2) 本競技場での練習は、全てトラック競技と同じ方向で走り、逆走は絶対にしないこと。
なお、レーンを次のように指定する。
 - ・1～2レーン jog
 - ・ホームストレートの3～6レーン スタート練習
 - ・ホームストレートの7～8レーン ハードル練習
 - ・バックストレートの3～8レーン 流し・バトン練習
- (3) 競技開始後は、競技に支障が無い範囲（*）でバックストレートを使用して構わない。
*概ね80mH、100m及びダッシュ50の実施時間帯が目安。
- (4) 安全に十分留意して行うこと。なお、練習中に発生した傷害等は、応急処置は主催者で行うが、以後の責任は負わない。